



マルリフーズ
Maruri Foods

営業部 阿部 純也



画像は、福島県相馬市松川浦です。こちらで養殖しております

- ・ 東日本大震災で工場や漁場が被災し原料調達ができなくなった
 - ・ 原料を求め国内、海外をまわり情報収集をおこなった
 - ・ その結果、あおさが食用として認知度が皆無と知った
- ➡知られていないならばチャンスがあるかも！

しかし現実は甘くなかった…

- ・ コロナ過のオンライン商談は進展なし
- ・ ワカメは知っている。それ以外は全てSeaweed
- ・ どのように食べるのか？
- ・ アオノリ、アオサ、ヒトエグサ違いわからない

- ・海外輸出について様々な情報提供
- ・海外バイヤーの産地訪問・工場見学招致
- ・オンライン商談への招待



- ・福島県産水産品、震災後初EUへの輸出
- ・福島県松川浦産冷凍あおさ100gを約1500パック

相馬市松川浦産のあおさ（ヒトエグサ）が欧州連合（EU）向けに輸出される。日本貿易振興機構福島貿易情報センター（ジェトロ福島）によると、東京電力福島第1原発事故発生後、県産の水産品がEU向けに輸出されるのは初めて。ジェトロ福島が11日、発表した。

今回輸出されるのは食品加工会社のマルリフーズ（相馬市）の冷凍のあおさ。今月中旬に100kg入りのパック約1500個を海路で輸出する。オランダの企業が11月、電子商取引（EC）サイトで販売する他、欧州各国で試食販売する予定。ジェトロ福島が水産品の輸出促進支援事業として、7月にオランダのバイヤーを招いた。相馬市やいわき市で海産物を視察し、業者と商談してきた。あおさの風味の良さが評価され、た。

マルリフーズがEU向けにあおさを輸出するのは初。担当者は「福島を応援してもらいたい。今後、輸出事業に力を入れていく。スープやパスタの具材にして食べてもらいたい」と話した。

相馬の「あおさ」EU輸出へ

本県産水産品、震災後初

ジェトロ福島発表



日本貿易振興機構福島貿易情報センター（ジェトロ福島）は11日、相馬市の松川浦産アオサのオランダへの輸出が決まったと発表した。オランダが加盟する欧州連合（EU）は東京電力福島第1原発事故後に日本産食品に課してきた輸入規制を8月に撤廃しており、ジェトロ福島によると、EU加盟国への県産水産物の輸出は震災後初めて。

ジェトロ福島が11日、相馬市の松川浦産アオサのオランダへの輸出が決まったと発表した。オランダが加盟する欧州連合（EU）は東京電力福島第1原発事故後に日本産食品に課してきた輸入規制を8月に撤廃しており、ジェトロ福島によると、EU加盟国への県産水産物の輸出は震災後初めて。

輸出は震災後初めて。ジェトロ福島が11日、相馬市の松川浦産アオサのオランダへの輸出が決まったと発表した。オランダが加盟する欧州連合（EU）は東京電力福島第1原発事故後に日本産食品に課してきた輸入規制を8月に撤廃しており、ジェトロ福島によると、EU加盟国への県産水産物の輸出は震災後初めて。

相馬アオサEUへ
震災後初の県水産物輸出

長き、幅広い料理で活用できるとなどを評価したという。

商品は17日に工場から出荷され、神戸港から冷凍コンテナ便でオランダまで輸送される。インターネットを通じて欧州各国で販売されるほか、現地での試食イベントも企画されている。ジェトロ福島によると、海産物は欧州ではなじみが薄

10月12日付福島民報新聞朝刊

- ・あおさレシピを拡充し多くの国で食べられるように
- ・あおさ加工品も活用し販路拡大を目指す

